

○延長国会は経済対策をやろう

麻生さんが10月末に発表した経済対策を実行するための予算と法案(第二次補正予算案)が国会に出てきません。世論の批判の的になっている12,000円のバラマキを中心にした経済対策を年度末に実行したいならばタイムリミットは過ぎています。

民主党は、従来から主張してきた経済対策関連の法案を出すことにしました。違いは、与党の一年ポッキリの緊急措置よりも、この際、国民の生活に安心感が出る制度改革に結びつく政策にしたいということです。

従来の主張である道路特定財源の暫定税率廃止。所得税の扶養控除などを廃止して子ども一人当たり月々26,000円を中学卒業時まで支給する子ども手当。幹線高速道路の無料化。派遣や期間工などに集中する失業に対する緊急措置と制度改革などが中心になっていきます。また、中小企業向け貸し出しを担う地方の金融機関に対して、これまでの政府による救済だけではなく、日銀が直接資本の注入をしたり、株式の購入枠を広げたりする方向で役割を広げることや、公正な競争環境の整備を目的とした「中小企業いじめ防止法」などです。もちろん財源には、無駄遣いの徹底的な検証と所得税控除などの廃止転換や、補助金を廃止して地方に対して交付金化する施策など具体的に提案します。

二次補正予算提出を、このまま来年の国会まで先送りするのはあまりにも無責任です。自民党の中だけでもしていないで、国会の表舞台で議論すべきです。

○今こそ、北朝鮮対策を

北朝鮮情勢が動いています。めぐみさんの元夫の金英男氏の母親を見つけ出した韓国の拉致被害者家族団体の会長チェ・ソンヨン氏などが中心となり、風船に手紙やビラ、一ドル紙幣などをつけて、韓国から北朝鮮に大量に送りつける運動を続けてきました。北朝鮮は、この運動への抗議として、南北の国境を閉鎖し、北朝鮮内の韓国企業のケソン工業団地への往来や金剛山観光も停止することにしたと発表しています。私も、毎年ケソンに行く申請を韓国の国会議員と一緒にしていますが、一度も許可されたことはありません。北朝鮮のブラックリストに私の名前が載っているそうです。

金正日総書記の健康状態が危ういと言われていまず。食料や燃料の不足も深刻だそうです。金正日の直接指揮が少なくなればなるほど、軍部の指導者は、外に敵を作って内部の結束を図る必要から、韓国や日本に対して先鋭化することになります。北朝鮮の体制が揺らいできていることは確かです。最近北朝鮮から脱北してきた人々の証言では、社会の悲惨な状態が生々しく伝えられます。拉致問題を含む北朝鮮の人権に関する国際議員連盟の総会は、今年もソウルで開催しました。韓国は政権がハンナラ党に変わったこともあり、日本やアメリカ、モンゴルなどの国々と、さらに強い結束で北朝鮮に対峙していく姿勢を打ち出すことができました。

12月10日前後には、日本でも北朝鮮人権週間の催しが開かれます。拉致被害者家族の高齢化、北朝鮮国内環境の悪化など、北朝鮮の問題は一刻も早く解決されなければならない状況にあります。日朝の二国間だけではなく、人権回復という枠組みで、多国間で連携して北朝鮮と交渉していくことが、解決につながると考えます。

○後援会事務所はプレハブで

いざ出陣、と言うことで、各地域の選挙態勢を皆さんで作っていただきました。ところが、麻生さんの判断間違いだけではなく、経済対策のバラマキなどをめぐって自民党内も混乱して、選挙が先延ばしとなりました。私達政治家は、与野党問わずストレスがたまり破裂しそうな気分ですが、日本の国家としての意思を決められない現在の状況は、もつといけません。

「中川さん、選挙は実際、いつあんのや？」ときかれることが一番難しい。「麻生さんに、直接電話して、はっきりせんかい、と言ってやってよ。」と言う外ありません。

四日市に開設した後援会事務所は、いったん閉鎖を余儀なくされました。後援会の本部事務所は、この際、国分の旧事務所から新しく鈴鹿の矢橋に建てたプレハブ事務所に移すこととしました。もう一度やり直しますが、しかし、政治活動、後援会活動そのものは、活発に続けたいと思っています。

各地のミニ懇談会で精力的に皆さんの意見を汲み取る努力をしていきます。どこでも行きますからお声をおかけください。